

## ビーチバレーボール競技大会開催のガイドライン

福島県ビーチバレーボール連盟

本ガイドラインは、新型コロナウイルス対策に関するスポーツ庁、日本スポーツ協会、日本バレーボール協会、福島県バレーボール協会から示された各種指針等を踏まえ、本連盟がまとめたものです。

### (1) 大会等の参加募集時の対応

参加者の安全を確保するため、これを遵守できない参加者には大会等への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得ることを周知することが必要です。なお大会等の主催者が参加者に求める感染拡大防止のための措置として、以下が挙げられます。

- ① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（大会当日に書面で確認を行う）
  - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
  - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住との濃厚接触がある場合
- ② マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）
- ③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒の実施
- ④ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離を確保すること（できるだけ2m以上／障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- ⑤ 大会開催中は大きな声での会話、応援等をしないこと
- ⑥ 感染拡大防止のために主催者が決めたその他の措置を遵守し、主催者の指示に従うこと
- ⑦ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

### (2) 当日の参加受付時の留意事項

大会等の主催者は、大会当日の受付時に参加者が密になることを防止し、安全に大会等を開催・実施するため、以下に配慮して受付事務を行ってください。

- ① 受付窓口には、手指消毒剤を設置すること
- ② 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼びかけること（状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限すること）
- ③ 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること
- ④ 参加者が距離をおいて並べるように目印等を設置すること
- ⑤ 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること
- ⑥ インターネットやスマートフォンを活用した受付の普及を一層図ることで、受付場所での書面の記入や現金の授受等をできるだけ減らすようにすること
- ⑦ 大会当日に限らず、前日などにも受付を実施し混雑を極力避けること

### (3) 大会参加者への対応

#### 1) 書類による体調の確認

参加チーム代表者には大会当日、以下の事項を記載した書面の作成・提出を依頼してください。

- ① 全員の氏名、年齢と代表者の住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取り扱いに留意
- ② 大会当日の体温（全員分）
- ③ 大会前2週間における以下の事項の有無（全員分）
  - ア 平熱を超える発熱

- イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
- ウ 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、疲れやすい、息苦しい（呼吸困難）等
- エ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- オ 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方の有無
- カ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無

## 2) マスクの準備等

大会の主催者は、参加者にマスクを準備するよう依頼してください（(1) - (2)）。

マスクの着用は参加者等の判断による（※）ものとしますが、参加受付、着替え、表彰式等の直接競技を行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用を求めることが考えられます。

また大会に参加する個人や団体は、大会の前後のミーティング等においても、三つの密を避けること、会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮することが求められます。

※役員や競技補助員の試合中におけるマスクの着用については、主催者側で柔軟に対応ください。

## (4) 大会等の主催者が準備・配慮すべき事項

### 1) 大会会場・競技備品類

競技で使用する備品には不特定多数の参加者が直接手を触れる物が多く、開催期間の前後を含む継続した対応が必要です。

- ① 試合球はできるだけ複数個用意し、こまめに消毒・清掃を行って交換しながら使用する
- ② 線審のフラッグ、得点板等、試合で使用する備品類のこまめな消毒など衛生対応に留意する
- ③ 審判員の笛（私物）についても、唾夜の付いた状態での放置を避けるなど、不慮の接触を避けるため留意を求める（※電子ホイッスル等の活用）
- ④ 特に仮設テントなどの設置物に関して、換気の悪い密閉空間としないようにする。通気口を設ける等、換気に留意すること。更衣室などでテントを閉鎖して使用する場合においても、一度に使用する人数を制限し、密集・密閉状態を避ける
- ⑤ 主催者は、感染対策とともに熱中症のリスクにも備えること。特に、マスクを着用していると水分補給を忘れてしまうことにより、体温が上昇することがあるため、こまめに水分を補給すること。

役員や競技補助員の試合中におけるマスクの着用については、主催者側で柔軟に対応する

### 2) 運営スタッフの体調確認

参加チームのみならず、運営に関わるすべてのスタッフの検温を実施し、(3) - 1) - ③と同様の確認を行うことが求められます。運営リストにはない関係来場者などを正確に把握し、全員分の体調確認も徹底するよう努めてください。

### 3) 式典等、運営の簡略化

コイントス時、キャプテンと審判間のあいさつや試合前後の握手に関して、当面は一礼などでこれに代える形としてください。また開・閉会式、表彰式などでは、参加者が密になる状態を避けるため、式典参加者の数を減らす、内容を簡略化するなど、必要性に応じながらも柔軟な対応が求められます。

### 4) トイレ・手洗い場所

洗面所（トイレ）は感染リスクが比較的高いと考えられるため、大会等の主催者は、以下に配慮して管理することが求められます。また参加者がイベント開催・実施の間に手洗い・うがいをこまめに行えるよう、以下に配慮して手洗い場所を確保することが必要です。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ③ 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- ④ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- ⑤ 可能な範囲で、手を拭くための使い捨てペーパータオルを用意する（参加者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備は使用しないようにする）

⑥ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する

## 5) 更衣室、休憩・待機スペース

更衣室、休憩・待機スペースも感染リスクが比較的高いと考えられるため、大会等の主催者は、更衣室や、一時的な休息をするための休憩スペース、参加者等が参加前の確認を受ける待機スペース（招集場所）について、以下に配慮して準備することが求められます。

- ① 他の参加者と密にならないよう広さにゆとりを持たせる（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者数を制限する等の措置を講じる
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する
- ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する

## 6) 競技中の注意事項

プレー中も選手、スタッフ同士の接触機会を減らすよう、以下の点に配慮が求められます。参加チームには、競技前に周知のうえ協力を要請してください。

- ① ベンチでの集合時においてもできるだけ密集・接触を避ける
- ② 競技中のハイタッチは腕のタッチにとどめる
- ③ スイッチの際の相手チームとのタッチは行わない
- ④ ネット際などで、相手に向けた状態での発声は控える
- ⑤ 唾吐き禁止
- ⑥ 砂が入ってしまった場合は、ティッシュ等に吐きビニール袋に入れる
- ⑦ タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの共用禁止
- ⑧ 競技に携わるスタッフ（サンドレバラー、レトリバーなど）の注意事項も明確にしておく

## 7) 観客の管理

大会やイベントに観客の入場を認める場合には、マスクの着用をできるだけ課したうえ、観客出入口付近通路にアルコール等の手指消毒剤を設置するほか、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らして間隔を空けるなどの対応が求められます。特に試合前後には観客の一斉移動が起こりやすく、通路等に人が押し寄せて密になる可能性が高いため、主催者によるコントロールが重要です。観戦場所が狭いスペースに限られる場合、当面は観客の入場を不可としてください。

※応援の際は日傘等をさし、パーソナルディスタンス（最低1m）の確保してください。

感染拡大の状況によっては、入場時の検温などを導入するのが望ましいでしょう。応援については、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用することが求められますが、トラブル回避のためにもあらかじめ各チームに共通の目安を伝えておくことが有効です。

その他、会場内での飲食に関する規定や外履きを持ち込むための袋を持参する等の留意事項を周知することも必要です。

## 8) ゴミの廃棄

鼻水、唾液などが付いたごみや使用済のテーピングなどはビニール袋に入れ密閉して縛り、回収する人はマスクや手袋を着用してください。作業後は必ず石鹸と流水で手を洗い、手指を消毒することが必要です。

## (5) その他の留意事項

大会の主催者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、大会当日に参加者より出を求めた書面（上記（3）1））について、保存期間（少なくとも1か月以上）を定めて保存しておくことが必要です。また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくことが必要です。

## 感染防止策チェックリスト（主催者向け）

### 全般的な事項

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をチェックリスト化し掲示する
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮する
- 感染が発生した場合に備え、参加当日に提出を求めた書面は保存期間（1ヵ月以上）を定めて保存する
- イベント後に参加者から新型コロナウイルス感染症発症の報告があったり、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告されたりした場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局と事前に検討しておく

### 大会等の参加募集時の対応

主催者が参加者に求める感染拡大防止のための措置としては、以下のものが挙げられます。

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求める（大会当日に書面で確認を行う）
  - 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
  - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - 過去14日以内に入国制限／観察期間が必要な国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクの持参を求める（参加受付時や着替え時等のスポーツをしていない際や会話時にはマスクを着用する）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する
- 他の参加者、スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 大会開催中は大きな声で会話、応援等をしない
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者へ速やかに報告する

### 当日の参加受付時の対応

- 受付窓口には、手指消毒剤を設置する
- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼びかける（発熱者の入場制限等）
- 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する
- 参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行う
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させる
- インターネット等を活用した受付の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようにする
- 当日の受付のほか、大会前日の受付を実施し混雑を極力避ける
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求める
  - 全員の氏名、年齢と代表者の住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取り扱いに十分注意する
  - 大会当日の体温

大会前2週間における以下の事項の有無（全員分）

- 平熱を超える発熱（おおむね37度5分以上）
- 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、息苦しい（呼吸困難）、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去14日以内に入国制限／入国後の観察期間が必要な国、地域等への渡航や当該在住者との濃厚接触有無

### 大会参加者への対応

- マスク等の準備
  - 参加者がマスクを準備しているか確認する
  - 参加の受付、着替え、表彰式等の競技を行っていない間には、マスクの着用を求める
- 大会参加前後の留意事項
  - 大会前後のミーティングや等においても、三つの密を避ける
  - 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する

### 大会主催者が準備すべき事項の対応

- 大会会場・競技備品類
  - テント等で密閉が生じないように留意する
  - 更衣室等は定期的な換気に加え、空調の活用及び扇風機の併用（熱中症リスクにも備えること）
  - 試合球は複数個用意し、こまめに消毒・清掃を行って交換しながら使用する
  - フラッグ、得点板等、その他備品類のこまめな消毒など衛生対応
  - 審判員の笛の管理（不慮の接触を避け、電子ホイッスル等を活用する）
- 運営スタッフの体調管理
  - 大会当日の体温

大会前2週間における以下の事項の有無

- 平熱を超える発熱（おおむね37度5分以上）
- 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、息苦しい（呼吸困難）、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去14日以内に入国制限／入国後の観察期間が必要な国、地域等への渡航や当該在住者との濃厚接触有無
- 式典等、運営の簡略化
  - 試合前後の握手は一礼で代替する
  - 開・閉会式、表彰式の簡略化対応
- トイレ・手洗い場所
  - トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）は、こまめに消毒する
  - トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
  - 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
  - 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
  - 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する（手指を乾燥させる設備については使用しない）
  - あらかじめ参加者にマイタオルの持参を求めておく

- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する
- 更衣室、休憩・待機スペース
  - 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助を行う場合を除く）
  - ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる
  - 複数の参加者が触れる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）は、こまめに消毒する
  - 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する
- 競技中の注意事項
  - ベンチでの集合時、できるだけ密集・接触を避ける
  - 競技中のハイタッチは腕のタッチにとどめる
  - スイッチの際の相手チームとのタッチは行わない
  - 唾吐き禁止
  - 口に砂が入ってしまった場合は、ティッシュ等に吐きビニール袋に入れる
  - タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの共用禁止
  - 補助スタッフの注意事項も明確にしておく
- 観客の管理
  - 出入口付近通路に消毒剤を設置するほか、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席数を減らすなどの対応をとる
  - 応援の際は日傘等をさし、パーソナルディスタンス（2m以上、最低1m）の確保する
  - 試合前後の一斉移動をコントロールする
  - 大声での声援を送らないことや会話を控えるなど、応援ルールを各チームに周知する
  - 会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知する
- ゴミの廃棄
  - 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人はマスクや手袋を着用する
  - マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

## 感染防止策チェックリスト（参加者向け）

**参加者が遵守すべき事項**

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（利用当日に書面で確認を行う）
- 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参する（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしない
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する
- 大会前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避ける